

「歩こう、歩こう♪」

子どもの頃、私は「将来の夢は何ですか？」という質問が苦手でした。あまり夢を語りたがらない子どもだった、と言えば良いのでしょうか。特になりたいものが無かったというのが、正直なところですよ。宇宙飛行士とか、スポーツ選手とか、なんかこうピンと来なかった、今思えば、可愛げのない子どもだったかと思います。ただ、夢をしっかりと持って、それをお話ししている友達のことは、尊敬していました。「叶うかどうかも分からない夢を話すなんて、恥ずかしい」と思う程には、擦れていなかったってことですね。夢を語れる人は、素晴らしいと思います。

思えば、私の人生は、夢のない人生でした。言い換えるなら、明確な将来像を持たず、その時その時の考えや、感覚や、周囲の勧めを受け止めて、選択と決断を繰り返してきました。遠くの未来にゴールを定めて、そこへ到達することを熱心に求め続けるという、そんな人生ではありませんでした結果的に、牧師という生き方をしていますが、これも、私の夢だったわけじゃなく、「そういう風にされてしまった」というのが、正直なところですよ。キリストに捉えられる、とは良く言ったものです。イヤイヤとまではいかないまでも、「はあ、まあ、もう仕方ないか、牧師になる他ないな」という。きっと、そういう動機づけで牧師をされている方は、多いんじゃないかと思えます。むしろ、語弊を恐れずに言えば、小さな頃から将来の夢が「牧師になること」だったとするなら、それはそれで、大きな弊害を抱えているように、個人的には思っています。

牧師になることも、クリスチャンになることも、全ては、神様の御旨に沿って実現する出来事なのだから、神様のお考えに対して、私たちの願いや希望が先立たないことは、別に不思議ではありませんし、先立たない方が良くも思えます。まず神様が御手を差し伸べられる、そして、

初めて私たちの心が動く。そういう動作の順序があるのだらうと、私は思っています。

ちょっと話は変わりますが、実は、この説教を作るという営みも、神様に導かれる人生に似ているところがありまして。というのは、聖書箇所が与えられて、そして、説教の結論も明確に与えられて、説教を書き始める場合と、聖書箇所も定まらず、まして説教の結論なんて影も形もない状態で、次の一文、次の一文字を絞り出すように書き出していく場合と、2通りあるんですね。奇跡的に、説教の結論が明らかな場合、これは書いていて、とてもスムーズです。まるで水が流れるかのように、筆が進み、と言っても、パソコンで作るので、筆ではなく、キーボードを叩く指先がスムーズということですが、それでも、淀みなく滞りなく、結論に向かって、文章が滑らかに続いていくことがあります。そういう風に説教が書けている時は、これぞ聖霊が降っているのんだらうな、と思ってしまいます。一方で、全くキーボードを叩く指が動かない時もあります。自分が何を書きたいのか、どういう結論にして、どういう福音を伝えたいのか、全く解らないまま、でも説教を書かないといけない時もあります。次の一文、次の一文字さえ見通せない中で、小さな砂つぶを積み重ねるようにして、どうにか説教の体裁を整えていく。全体像が見えないまま、文字を繋げていくので、筋が蛇行し、流れが寸断され、唐突に結論が提示されて、全然、立派な説教と言えないものが出来上がる時もあります。

でも、不思議と、そういう行き当たりばったりな、理路整然としてない説教の方が、これ、受けたりするんですよね。まだ神学生だった時に、風邪を引いて高熱にうなされながら書いた、支離滅裂な説教が、えらく好評を博したこともありまして、説教って奥が深いと言うか、自己評価ってあまり当てにならないんだなあ、と思ったことがあります。

たとえば、正しい道が知らなくても。たとえば、正しい理屈を弁えていなくても。たとえば、正しい言葉を選ばなくても。神様とイエス様が、その気になれば、私を相応しい場所へ導いてくださるか

も知れない。と、自分の人生を振り返り、また、日々の説教の執筆を通して、つくづく感じています。疑い惑う時も。失敗を痛々しく思い、後悔を恥ずかしく思う時も。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」。常に正しい道を歩くから、神様とイエス様に出会うのではなくて。悩みつつ、後悔しつつ、でも一生懸命に私が歩んだ道が、赦され、祝福され、神様のもとへ繋げられていくのだと思います。そのことを信じて、歩むことを止めないように、きっと私たちは励まされているのでしょう。ゴールは見えなくても、神様が良いように整えてくださると信じて歩むことで、私たちは霧の中でも、不安の中でも、主の道を歩むことが出来る。

どんなに信仰を培っても、善行を積んでも、私たちはトマスと一緒に。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか」と。むしろ、逆に「私は主の道を知っている」と豪語する人がいたら、ちょっと警戒した方が良いかも知れません。常に正しい道を選んで歩むなんて、そんな芸当は、私たちにはできません。もしも、それが出来るなら、私たちには神様も赦しも信仰も要らないってことになります。

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」と、イエス様は仰います。まるで、イエス様を選ばなければ、イエス様を自力で見つけなければならぬと言われているような忠告です。でも、忘れないでいたいのは、私たちがイエス様を選んで信じたのではなく、イエス様が私たちを選んでくさって、キリスト者としての歩みを備えてくださったのであり、私たちがイエス様を自力で見つけたのではなくて、イエス様が私たちを見つけてくださり、招いてくださったということです。神様の御計画や、イエス様の御心よりも先に、私たちが自発的に動いて、優等生のように相応しい選択をすることを、別に求められているわけではありません。むしろ、これで良いのだろうか、こっちで合っているのだろうか悩みつっ、でも、隣人に対して優しくあろうと、社会に対して誠実にあろうと考えて

進んできた道を、神様が祝福で満ちし、イエス様が寄り添ってくださるのだと私は思います。

思い出してみれば、イエス様の十字架の出来事も、決して人々の正しい道の先に実現したものではありませんでした。目先のことに惑わされ、同調圧力に屈して、主の十字架は実現してしまいました。しかし、その後に用意されていたのは、過酷な叱責や断罪ではなく、復活と言う希望の出来事でした。赦しの出来事でした。正しい歩みが出来なくても、正しい選択が出来なくても、そんな人生にこそ、イエス様は寄り添ってくださり、神様は愛と赦しを注いでくださいます。だから何度でも言いたいことですが、「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」という御言葉が嬉しいんですよ。

既存の社会制度や評価基準の枠組みの中で、正しく、適切で、生産的で、合理的な選択肢をおススメする考え方が幅を利かせています。もちろん、世間の潮流に乗るのは、成功や幸せを掴む上で常套手段ではあります。また、聖書を読んで、説教を聴いて、正しく、適切で、信仰的で、敬虔な選択肢を求める考え方もあります。良い信仰者でありたいと願う気持ちは否定できません。しかし、私が、一番大切にしたいのは、「こんなダメな私でも愛してくださる、神様がいてくださる」という信頼感であり、「私が歩んできた道には、常にイエス様が一緒にいてくださった」という確信であると思います。お利口さんになったところで、その内面を全て神様は御存じです。強がったところでイエス様はお見通しです。であるなら、ありのままの私が愛され、祝福されていることを素直に信じて、感謝と賛美を捧げることを大切にしたいと思います。そして、私を愛してくださる神様を知って、私に寄り添ってくださるイエス様を感じて、私に隣り合う人へ、謙虚さと配慮をもって接することも心掛けて参りたいと思います。

どこまで行っても、失敗するし、間違えるし、不完全で、立派になれないかも知れないけれど、それでも尚、神様の愛と、イエス様の恵みを信じて歩む、私たちの上に、豊かな祝福と励ましが

ありますように。心から願うものであります。お祈りを致します。

神様。今日もこうして、敬愛する兄弟姉妹と共に、この礼拝堂に招かれましたこと、心から感謝致します。あなたは、私たちに相応しい道を備え、私たちが躓くことがないように常に支え導いてくださいます。そして、その道のりは、私たちが選んだのではなく、あなたによって与えられた道りであることを、今日、再び心に留めたいと思います。私たちの努力や工夫によって、今日の恵みが約束されているのではなく、ただ、あなたの御心によって、今日の幸いが守られていることを知って、感謝致します。どうか、今日から始まる1週間も、あなたの導きのままに、素直な気持ちで、あなたの道を、主の道を歩んで行くことが出来ますように。そして、隣り合う者同士、喜びと励ましを分かち合うことができますように。支え導いてください。この後、持たれる教会総会の上にも、あなたの祝福が豊かにありますように。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。

5月召天者を憶える祈り 聖書：ヨハネの黙示録7章13～17節

すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」

今 栄作兄　こん　えいさく　けい　　(2020年5月1日)

野村信規兄　のむら　のぶのり　けい　　(1961年5月4日)

ニッ矢義一兄　ふたつや　よしかず　けい　　(2017年5月6日)

松浦和子姉　まつうら　かずこ　し　　(2022年5月7日)

井上サチ姉　いのうえ　さち　し　　(1990年5月10日)

笹本みち子姉　ささもと　みちこ　し　　(1940年5月12日)

谷口留夫兄　たにぐち　とめお　けい　　(1945年5月14日)

谷口奈良江姉　たにぐち　ならえ　し　　(1991年5月14日)

高木勝利兄　たかぎ　かつとし　けい　　(2016年5月19日)

木村武雄兄　きむら　たけお　けい　　(2012年5月21日)

神様。私たちは今、来る5月にあなたの御下へと召された兄弟姉妹を憶えて祈りを捧げています。尊敬すべき信仰の先達のことを思う時、私たちの心はこの世を超えて、あなたの住まう天上にまで及びます。御国の幸いのただ中におられる方々は、必ずやあなたと共に永久の安らぎに身を委ねていると信じます。生前に各々成し遂げられた働きに対する十分な報いが天にはあることを信じます。来る日には、私たちもまた天へと帰っていきます。その時、再び相見える昔懐かしいお顔を前にして、恥じることなくこの地上での働きをお伝えすることができるように、どうか私たちの生活と信仰をあなたが導いてください。天には豊かな平安がありますように、そして、地にはあなたによる力強い導きと、安らかな慰めをお与えください。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名を通して、あなたの御前にお捧げ致します。